

# 阿部地先のトコブシとサザエの 漁獲サイズと個体成長の推定

小島 博・森 啓介

前年度に引き続いて、阿部地先で漁獲されたトコブシ（方言ナガレコ）とサザエの大きさを測定し、トコブシとサザエ資源の増殖並びに保護対策を講じる上で、の問題点を明らかにすることを目的としている。

## 1. 材料及び方式

昭和61年7月21日から9月22日の間に、由岐町阿部地先で漁獲されたトコブシの殻長及びサザエの殻高を8回測定した。トコブシの測定数は、一回当たり125～189個で、総測定個数は1,110個であった。また、サザエの測定数は、一回当たり119～160個で、総計は1,020個であった。

## 2. 結果

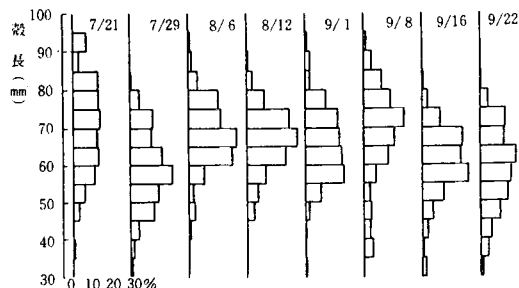


図1 漁獲トコブシの殻長組成

今年度のトコブシの漁獲の殻長組成は図1に示す通りであった。漁獲のモードは調査日により大きく異なり、解禁当初モードは60～65および70～75mmに見られたが、7月末には55～60mmへと移動した。8月上・中旬には65～70mmに見られ、殻長組成そのものが類似した。9月に入ると、55～60、70～75、55～60、65～70mmと調査日により変化した。この様に、漁獲殻長のモードは55～75mmの広い範囲に及んだ。このモードの含まれる殻長範囲にトコブシ総数の74%が含まれた。殻長45～85mmの範囲には総数の93%が含まれた。漁期を通しての漁獲殻長の平均値は62mmであった。

サザエの漁獲の殻高組成は図2に示す通りであった。サザエの漁獲モードは調査日による変動が小さく、60

～65mmないし65～70mmの範囲に出現し、この範囲のサ

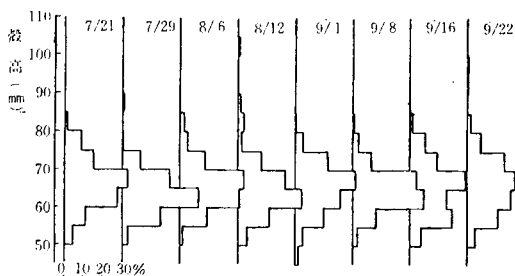


図2 漁獲サザエの殻高組成

ザエは総数の58%を占めた。漁獲された多くのサザエは殻高55～75mmの狭い範囲に集中し、総数の85%に達した。漁期を通しての漁獲殻高の平均値は63mmであった。

## 3. 考察

本年度の漁獲トコブシの平均殻長は62mmで、前年度に比較して6mm大型化した。これは殻長45mm以下の小型群の漁獲量が前年度に比べて少なく、2歳群の加入水準が低かったことを示すと推定する。そのため、本年度の漁獲量は前年に比べ2.2トン少ない4.6トンであった。

サザエの平均殻高は63mmで、前年度に比較して6mm小型化した。これは主に殻長80mm以上のサザエの漁獲数が減少したことによる。殻高組成そのものは大型群を除くと前年によく類似している。サザエは引き続き若齢群加入量が増加しており、本年度の漁獲量は前年度に比べ22トン多い38.5トンであった。

トコブシ、サザエの何れも若齢群から利用しており、若齢群の加入水準はそのまま漁獲量に影響を及ぼしている。また、トコブシ、サザエは本県では種苗放流をしていない種類であり、資源の合理的な利用が漁獲量を増大させる重要手段である。そのためには、年級群別による資源量推定、漁獲能率、資源利用率など資源と漁業に関する解析、方法論を含めて、今後検討課題が残されている。